別紙３

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2064413
施設名（園名等）	狛江こだま幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

農作物・植物　栽培

<テーマの設定理由>

実体験する芋掘りなど感動的なことを経験したり、季節によって咲く花を紹介すると興味深く知ろうとする園児の姿から、種まきからの成長過程を体験観察することでより一層の興味関心と農作物の収穫までの農家さんのことを知る上で、テーマ化した。

２．活動スケジュール

季節の花の種子及び球根の観察と感触を味わい、成長過程を観察し記録する

○年少　ひまわり（5月）、ヒヤシンス（1月）

○年中　あさがお（5月）、チューリップ（12月）、

○年長　ミニトマト（5月）、クロッカス（11月）

じゃがいもの植付と収穫、夏野菜と植付と収穫と試食

○年中３月に園内畑に種芋の植付

○年長７月に自分達が植えたじゃがいもの収穫、お泊り保育でカレーの具材として食す

○全学年、クラス毎になす、きゅうり、とまとの成育観察と草取り、収穫直後にクラスで試食

市内農園にて全園児のさつまいも掘り（10月）、やきいも大会（11月）

その他、園内果樹（みかん、ゆず、キウイ、柿）の収穫と試食

３．探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり　等を記載ください。

（準備）　各種　種子と球根、土壌作りの肥料等

（活動中の様子）

・様々な花や樹木について興味関心を高め、成長の記録を絵にしてクラスに掲示した。自分が植え付けした種から芽が出たときや、種芋からの芽が並んでいるのを見て「これ僕が植えた！」などの歓声と他の夏野菜の成長過程を確認した。その上で、「畑行こう」という言葉が多くなり、行ったときに雑草取りや収穫の喜びを共感した。

・収穫後はクラスで食し、「おいしい！」の一言は笑顔満面で、保護者からも「野菜を食べるようになった」などの声も聞かれた。

・これら一連の活動を通して、農作物の成長過程の観察と食の大切さ、農家さんへの感謝と食品ロスを認識し食育の推進を図ることができた。

４．振り返り

・「土がバラバラだよ？」の声から、チューリップの芽をカラスが食べてしまい、事実を伝えるか、新たなものをこっそり植え直すかを悩むが、事実を伝え「今度は食べられないようにしよう」と伝えると「かかしつくろう」の発想で、自分たちであるもので作った。「今度は咲くよ」期待を込めて待つことができた

・品種を教えない苗を植えたことで、葉や茎を観察して図鑑で調べたりする姿があり、実がなったところで判明し、予想との検証で楽しめた。

別紙３

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2064413
施設名（園名等）	狛江こだま幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

発見と創造

<テーマの設定理由>

毎日芝生上でのあそびが展開されており、身体育成の場であり、発見の場であり、自然との触れ合いの場である。定期的なメンテなナンスをした芝生の発育や芝生に潜む様々なことに気付きと発見が生まれているので、自然、発見としてテーマ化した。また、砂場は幼児の楽しい生活の場であり、創造性と協調性・協力性、人間関係が拡がるために砂山を設定した。

芝生の温もりは園児の健全な発育･情緒安定の上に幼児のまなび要素が幅広く、子ども達の

突然現れた砂山で、幼児のあそびの広がりを期待

２．活動スケジュール

① 日常生活のあそび場として自由解放
② クラスでピクニック気分でお弁当
③ 年２回のオーバーシード中は閉鎖（成長の気付き）
④ 新芽の時期は自然に寝転び、自由な遊び、
⑤ 雑草や虫の発見

３．探究活動の実践

<活動の内容>

（活動中の様子）

開放中は園児たちが様々なあそびを繰り広げ、ボール遊びをしたり、縄跳びや鬼ごっこをしたりを楽しんでいる。寝転びごろごろしていると、空の色や雲の形に気づく園児もいる。前転や側転を友達に見せる姿もある。

転倒や滑っても、怪我には至らず怪我防止にも役立っている。

ｵｰﾊﾞｰｼｰﾄﾞ中に場所によって成育が違うこと、中にボールが入ってしまった時の困った姿など子ども達の新芽に対するいたわりを感じた。

子ども達にとって、大好きな場所のようである。

芝生に潜む小さな虫や芝生の成長への気付きが多く見られた。

秋には落ち葉あそびには、きれいな葉を見つける絶好の場所であった。

（メンテナス）　専門業者へ委託し、通年で園職員が環境保持のため散水・芝刈り等行う。定期的に業者がオーバーシード、土壌改良を行う契約を交わしている。

突然の園庭中央に砂山の出現には、びっくりして遊び始めるまでにだいぶ時間がかかった。遊び始めると登ってみたり、削ってみたり、数日後固くなったころにはお山のっぺんに立つ姿が印象的であった。

４．振り返り

・一緒に寝転がり、空を見上げながらいろいろな話を交わすことができた。子ども達の自由な発想を聞くことで、次の教材準備発展させることができた。

・養生期間の立ち入り禁止の意味を体得し、自分たちで発芽を守ってあげようとする会話があった。

・発芽し、色ついてくると「もういいんじゃない？」「まだじゃない？」など、開放日を待ち焦がれる園児たちの顔があった。「園長先生に聞いてくる～」など、園児にとっての芝生であることが実証できる。

・砂山に対して、「あそんでいいの？」の許可を求める子どもの声に、日頃の子ども達への強制力について、考えさせられることになった。

別紙３

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2064413
施設名（園名等）	狛江こだま幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

小動物と水中の生き物

<テーマの設定理由>

小動物とのふれあいで弱者への配慮と命の尊さを心臓の音を聞くことで実感し、日常生活での他への優しさ、いたわり、共存について理解・体得してゆくことを期待できる。また、水の中の生き物とのふれあいにより、身近な生き物への興味関心がより高まることが見込まれる。この二つの経験を踏まえ、動物園や水族館への遠足にも意欲的に参加する姿を期待する。

２．活動スケジュール

・５月ふれあい動物園で、小動物とのふれあい、見学、ポニー乗馬での写真撮影
　学年毎に時間帯を区分けして行う
・８月末ふれあい水族館で、水辺の生き物の見学とふれあい
　鯉プール、カニ広場はふれあい可能、他展示魚類
・通年で、園内で飼育しているうさぎ、かめ金魚の当番活動を行ない、餌やりと一部清掃等を体験する。

３．探究活動の実践

<活動の内容>

（準備）各家庭から少量の餌（野菜）持参を依頼、消毒液
（活動中の様子）
・ふれあい動物園では、動物を抱く際の注意に加えて、小さな体だけど皆と同じ心臓が動いていること、自分に置き換えて小動物に接する気持ちを動物園長先生から聞いている姿勢は、意識が高い。早く触りたくて待ち遠しくしている園児、触りたいけどちょっと怖いと感じる子、多様な園児がいる中で、自分から行動を起こすことができることが子ども達であると実感する。実際に抱っこした園児は「あったかい、ちいさい…」など感想は口々に発せられた。
・ふれあい水族館では、カニのはさみを間近で観たり、勢いよく泳ぐ鯉を捕まえようと必死に追いかける子、鱗の感触を体験した子をうらやましそうに見ている低年齢児がおり、成長の差を感じることができた。きっとこの子も来年は触れるであろう。

４．振り返り

・触った動物の他に、身近な動物について話し合いをしたり、家で飼っている動物について紹介したりと広がりをみせた。また、遠足で行く動物園への期待も増した。
・日頃の飼育活動への関心も変化し、飼育小屋付に集まる園児数が多くなる。
・命を大切にする感覚を育むことができた。
・陸の生き物と水の生き物の比較対象もできた。
・天候による動物への影響と魚に対する配慮

別紙３

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2064413
施設名（園名等）	狛江こだま幼稚園

１．活動のテーマ

<テーマ>

光と音・挑戦

<テーマの設定理由>

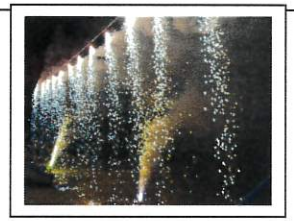
夏場のシャボン玉あそびに興味を持って遊ぶ姿と地域の花火大会の話題に盛り上がる中、園内でできる範囲の規模でイベント化して子ども達の喜びと感動、体験を増大する。

また、なわとびにも日頃から挑戦しているので、ダブルダッチ選手の演技やスタッキング選手の演技を間近で見ることで、挑戦する心の育ちを期待する。

２．活動スケジュール

①8 月 31 日に外部パフォーマーのシャボン玉ショーやダブルダッチの選手、スタッキングの選手を園にお呼びして、間近で観ること、体験させてもらうことで感動と喜び達成感を味わい、通常生活にて自分たちなりにあそびに組み入れている。
②9 月 26 日園内花火大会
③園内遊具や教具を活用したﾁｬﾚﾝｼﾞｶｰﾄﾞを用いて、自ら練習しできるようになったことへの喜びと達成感とさらに挑戦する意欲を持つことができている。

夏場にシャボン玉あそびは適時行い、縄跳びはクラスでも個人でも扱っている。
また、園内遊具や教具を活用したﾁｬﾚﾝｼﾞｶｰﾄﾞを用いて、自ら練習しできるようになったことへの喜びと達成感とさらに挑戦する意欲を持つことができている。



３．探究活動の実践

<活動の内容>

（準備）花火、絵の具、光の調光、水あそび中の偶然の発色
（活動中の様子）
・ホースで散水している時に発見「あ、虹だ」「消えた」「見えた」「消えた」の繰り返しで、多くの園児が集まってくる。消える位置と見えない位置、見える位置はどこか、まで気付けたらと期待
・色の認識ができていることで、クレパスではできないけど、絵の具の混色は容易くできること、どの色とどの色を混ぜるとどうなるか、クイズ形式でも展開できた。
・光を調光すると、絵の具と同じになる色にほとんどなるが、ならないことも知り得た。

４．振り返り

園内花火大会を鑑賞したことで、YouTube で大会の様子を観てみようという発想が生まれ、iPad 等で観て、花火の色について話し合ったり、大きな打ち上げ花火の見える光と爆発音の差について助言することで、「ほんとだ！」と声が上がった。

なわとびは、互いに練習し合う光景が多く見られるようになる。

スタッキングはそのものとして扱うことが無かったが、紙コップで城壁を作ったり、塔を作ったりしている光景があった。

また、ドミノにも興味を持ち始めた。

子ども達へ、身近な教具や材料を使った題材は果てしない拡がりを持っていることが実感できる。